

<今日の説教のポイント マタイによる福音書 27 章 57～66 節>
イエス様の死後に関する文面からの直接的意味とさらに深い意味。

①文面からの直接的意味—イエス様は確かに死んだ。「死んで葬られ」
(使徒信条)、「葬られ」(ニカイア信条)

キリスト教が広がり始めた頃、「イエスが復活したなんて嘘だ。弟子たちが死体を持ち去ったのだ」という反対が起こったことは想像に難くありません。しかし、墓に葬られたこと(57-60)、女たちがその全てを見ていたこと(61)、番兵が見張りにつけられたこと(62-66)が反証として挙げられるのです。復活は死の後に続くものですから、死の確認は大事なのです。使徒信条やニカイア信条の中にも「葬られ」が出て来る所以です。あとは、この普通では考えられない出来事を神様にとっては普通にできる出来事(そこに込めて下さった救いの恵みは普通ではない!)として信じられるかどうかです。信仰者はこれを信じ、その上に新しい生を築いていく者たちなのです!

②さらに深い意味—イエス様の支配が及ばない領域はない!「陰府に下り」(使徒信条)

①はこの個所から直接読み取れる内容です。しかし、さらに深い意味も昔から読み解かれてきました。イエス様が死んでから復活されるまでの間に込められた意味です。使徒信条では「死んで葬られ、陰府に下り」と、人が死んだ後に行くと言われていた世界までイエス様が行かれたことを加えています(I ペトロ 3:18-22, 4:6 死んだ者にも福音を伝えるために!)。このことから私たちが考えるべきことは、イエス様の支配が及ばない領域はないということです。この主の下に生きるとき、信仰者に怖いものはもう一つもないのです! そのことを示す人物こそ、アリマタヤのヨセフです。

③イエス・キリストから与えられる勇気ある姿、ここにあり!

彼は金持ちの議員でイエス様の弟子でした(マルコ 15:43)。しかし、死なれる主イエスの姿を見てもう恐れることをやめ、主イエスに自分の感謝の思いを示すつもりで思い切って遺体を引き取することを申し出たのです。それは間違っただけではありませんでした。主イエスは復活されたからです。私たちの目指すべき姿、ここにありです。